令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　志徳　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、３年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

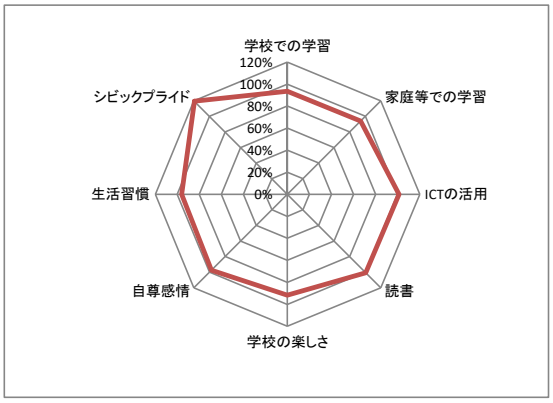
(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	言葉の特徴や使い方に関する事項や情報の扱い方に関する事項は理解できているが、話すこと・聞くこと・書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	意見と根拠など情報と情報との関係についてみる問題	
	努力が必要な問題	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	図形や関数などの理解に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる問題	

英語	全体的な傾向や特徴など	書くことについて概ねできていた。聞くことに関する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題	

4．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概



質問紙調査の結果分析

・生徒間で話し合う活動活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることに対する肯定的な回答が低かった。
・「国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書く」と回答した割合が低かった。
・「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用している」と回答している割合が高かったが、授業時間以外での活用は低かった。今後は、家庭学習での活用等授業以外での活用方法を整理し、適切な利用を推進していく。
・「家で計画を立てて勉強をしている」と回答した割合は高かったが、休日の勉強時間は全国平均を特に下回っていた。
・地域行事への積極的な参加や、地域と連携した取組の結果、地域や社会への関心が高い生徒が全国平均及び本市平均よりも非常に高くなった。

5．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・自分の考えを深めたり、広げたりすることができるような話し合い活動や協同的な学びの場面を意図的に組み込む。
・自学ノートや学習ドリルアプリ等を適切に活用することで、学習の個別最適化を図り、基礎学力向上を目指す。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・日頃から自学ノートや学習ドリルアプリの活用を推進することを通して、授業外や休日の自主的な学びにつなげる。
・上記の取組を学級通信を通して、周知する。